

# 国際高等研究所公募研究 報告書

## グローバルな分配的正義を促進する科学システムと科学者の役割に関する研究

### 1. 概要

---

分配的正義の観点から、より包括的で公平、かつ平等な科学システムと科学者の役割を検討し、未来に続く若手世代がそうした議論に参加し、国際的な活動のスキルを向上するために、分野横断的な若手～中堅の研究者のネットワークを形成する。分配的正義に関する最近の動向を、文献、国際会議の参加者からの聞き取りによる調査や国際会議に合わせてイベントを組み、議論を展開する。それらの議論の結果を積み上げ、論文として発表する。

### 2. 参加研究者

---

新福 洋子	広島大学大学院医系科学研究科教授
隠岐 さや香	東京大学大学院教育学研究科教授
狩野 光伸	岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授、同大学副理事（未来人材創生（SDGs 社会共創・DEI・附属学校園）担当）、附属学校機構長
近藤 康久	総合地球環境学研究所基盤研究部教授
坂元 晴香	聖路加国際大学公衆衛生大学院客員准教授
標葉 隆馬	慶應大学大学院メディアデザイン研究科 准教授

### 3. 研究目的と方法

---

人類は現在、気候変動や感染症、紛争といった世界規模の惨事を抱えている。グローバルには、その影響を直接的に受ける人、間接的に受ける人、影響を受けにくい人がいる。感染症を例にとると、ワクチンの世界的な分配の不平等は、健康格差に加え、渡航の可否にも渡り、機会の損失という不平等を生み出した。感染症は一部でも残ればそこから変異する可能性が残され、残り的人类にも不幸な未来を生み出しかねない。人類の未来と幸福のためには、科学技術から得られる恩恵を、グローバルに公正に分配する仕組みが必要である。本プロジェクトの目的は、分配的正義の観点から、より包括的で公平、かつ平等な科学システムと、その達成に向けて科学者はどのような役割を担うかを検討することである。

#### 研究方法

1. チームビルディング：参加メンバーによるオンライン会合によって、テーマに関し感じている課題を共有し、以後の研究活動について合意を得る。
2. 文献調査：分配的正義、科学ディアスポラ、科学技術外交、特に現存する国際団体の役割に関する最近の動向を文献や国際団体の委員からの聞き取りによって調査する。
3. 国際会議での議論：参加メンバーとの議論によって抄録をまとめ、国際会議にアジェンダを提出する（GYA 総会・学会、WSF 等を想定）。
4. 論文執筆：参加メンバーで議論した内容をまとめ、論文化する。

#### 4. 実施内容、成果

---

1) **チームビルディングとヒアリング**:参加メンバーと6回のオンライン会議を実施した。鹿嶋小緒里氏(広島大学 IDEC 国際連携機構准教授)、神原咲子氏(神戸市看護大学災害看護・国際看護学教授)、稲場雅紀氏(NGO ネットワーク「動く→動かす」事務局長)からヒアリングを実施した。また World Science Forum 2024 に参加し、Global Young Academy メンバーらと再会し、2026年7月に World Forum for Women in Science - Japan を開催することとなった。その組織委員会として、日本学術会議若手アカデミーの有志メンバー5名も加わり、科学技術外交や Global Young Academy の活動に関心の高い若手研究者のネットワークが構築され、今後更なる拡大を目指している。

2) **文献検討と論文執筆**:分配的正義(Distributive Justice)を中心に、その周辺でよく使用される健康の正義(Health Justice)や環境正義(Environmental Justice)と合わせて論文を調査した。分配的正義は、政策形成、グローバルヘルス、環境・気候変動といった幅広い領域において中核的な概念である。科学技術によるイノベーションは社会の長期的安定に貢献するのみならず、特に最も不利な立場にある人々の課題解決に資する可能性を持つ。一方で、イノベーションが不平等を助長するリスクも内包しており、その倫理的側面や社会的影響を評価し、公正な意思決定と便益配分を確保することが不可欠である。グローバルヘルス分野では、ワクチン分配や抗菌薬利用をめぐる不平等が顕在化し、健康の正義(Health Justice)の重要性が強調されている。COVID-19 対応は、脆弱な集団に不均衡な健康・社会・環境負荷をもたらし、構造的要因への対応と参加型アプローチの必要性を浮き彫りにした。さらに、環境正義(Environmental Justice)は、気候変動、エネルギー転換、水資源、エコシステム・サービス、先住民の知識と権利などを通じて、社会的不平等との関係を明らかにする。脱炭素化は健康や環境に利益をもたらす得るが、包摂的な意思決定と費用・便益・権力の公平な分配が伴わなければ、新たな不正義を生みかねない。これらの課題に対応するためには、分配的・手続き的・承認の正義を統合し、Planetary Health の視点から世代内・世代間・種間の正義を考慮した持続可能な社会設計が求められる。

これらとヒアリングした事例から議論、考察し、以下のような提言にまとめた(全内容は論文にまとめている)。

分配的正義を科学と政策の中で実装していくためには、以下のような複合的な戦略が求められる。

1. **政策統合**: 政府および国際機関は、科学技術政策や研究資金配分の枠組みに正義志向の視点を組み込み、研究・イノベーション戦略が公平性と持続可能性の原則に沿うよう設計すべきである。
2. **能力構築(キャパシティ・ビルディング)**: 大学や研究機関は、研究者が政策形成への

関与、倫理に基づく意思決定、分野横断的協働を行えるよう、教育・研修プログラムを整備する必要がある。

3. **包摂的ガバナンスの確立**：意思決定プロセスには、若手研究者、社会的に周縁化されてきたコミュニティ、グローバル・サウスの研究者など、多様なステークホルダーを含めることで、視点と権力の偏在を是正することが求められる。
4. **市民参加と科学リテラシーの向上**：教育、シチズンサイエンス、透明性の高い科学コミュニケーションを通じて、市民の関与を高めることは、科学と社会の乖離を縮小する。
5. **倫理的研究とオープンサイエンスの推進**：研究データへのオープンなアクセスや協働的イノベーションを促進し、公共利益に資する科学を重視することで、知識の独占を緩和し、より公正な知識循環を実現できる。

### 3) 国際会議への参加

- World Science Forum 2024：別途報告書参照
- 世界災害看護学会：パネルディスカッション「今後に向けた政策提言」登壇  
パネリスト
  - **萱野亮馬氏 (WHO 神戸センター)**：国際保健と災害対応の専門家として、WHOの視点から課題と展望を提起した。
  - **新福洋子氏 (広島大学)**：助産師教育・グローバルヘルス研究の立場から、地域と世界をつなぐ実装知を共有した。
  - **阿部啓士氏 (医師・衆議院議員)**：医療従事者・政策決定者としての経験を基に、現実的な制度改革の可能性を提案した。
  - **ユディ・アリエスタ・チャンドラ氏 (インドネシア大学)**：アジアの視点から、地域連携と脱植民地化への展望を示した。
  - **ラジブ・ショウ氏 (慶應義塾大学)**：防災と持続可能性の研究者として、科学的根拠に基づく政策設計の必要性を強調した。
- World Forum for Women in Science – Jordan：シンポジウム「Science Diplomacy - Challenges and Chances for the 21st Century」登壇  
中東の紛争が起こった直後であり、ヨルダンでの開催は見送られた。そうした世界における紛争や緊張の高まり、それによって起こるその国の研究者たちの亡命や研究・キャリアの断絶とそのサポートのあり方について議論を行った。  
パネリスト：**Dr. Encieh Erfani (Premeter Institute, Canada), Dr. Samer Abuzerr (University College of Science and Technology, Gaza), Dr. Sandeep Sandhu (UN Women, UK), Dr. Thandi Mgwebi (The National Research Foundation of South Africa), Sena Galazzi (Organization for Women in Science for the Developing World, Italy), Dr. Yoko Shimpuku (Hiroshima University)**

#### 4) 発表

International Science Council High-level Political Forum (HLPF) ポジションペーパー  
<https://council.science/wp-content/uploads/2024/07/HLPF-2024-compressed.pdf>  
Yoko Shimpuku Case study 5 14 ページ

標葉龍馬「第3章 科学的知識と分配的正義：科学技術をめぐる社会的不平等を考えると  
いうこと」ELSI 入門先端科学技術と社会の諸相. マルゼン出版 (2025 年)

#### 学会発表

Shimpuku, Y. *Implementation knowledge linking local communities and the world: From the perspective of midwifery education and global health research.* The 8th International Research Conference of the World Society of Disaster Nursing (Kobe), November 30, 2024.

Shimpuku, Y. *Distributive Justice in Science and Policy.* World Forum for Women in Science -Jourdan (Online), June 20, 2025.

Shimpuku, Y. *Co-Creating Equitable Futures: Social Innovation through Midwifery Care and Digital Health.* SocialTech2025(Hiroshima), October 2, 2025.

#### 招待公演

新福洋子. *分断をつなぐヘルスリサーチ：感性×理性×共創による公正なヘルスシステムへ.* ファイザーヘルスリサーチフォーラム (東京), 2025 年 12 月 5 日.

#### 4. 今後の計画

---

- 作成した論文は上記の国際学会等の議論も踏まえ修正、アップデートし、投稿準備にかかっている。2025 年度末までには投稿を計画している。
- 2026 年 7 月 18 日～20 日 World Forum for Women in Science – Japan を広島で開催する。その際に、母体である Women in Science without Borders (2024 年から Science for Humanity Global Society に変更)のメンバーと、継続的な活動に必要な組織形態についても話し合い、日本における団体の創設や連携等を相談する。その後も、本研究および国際会議の開催で培ったネットワークを活かし、World Science Forum やその他の国際会議へアジェンダの提案や登壇を行っていく。世界の科学技術コミュニティにおける日本の存在感を高めていくと共に、ネットワークの更なる拡大を行う。